



主要 7 候補の主張



※各候補者のホームページ（17日現在）から抜粋

	核兵器廃絶・削減	NPT (核拡散防止条約)・核不拡散	核テロ対策
民主党	クリントン氏	現政府は北朝鮮やイランとの対話をやめてしまったが、間違っている。冷戦期にソ連やキューバと対話を重ねたように、北朝鮮やイランが核開発をやめるよう直接交渉を続ける	
	オバマ氏	核兵器のない世界へ向けて段階的に取り組み、開発もやめる。例えばロシアと協力し、米口の弾道ミサイルの一触即発態勢をやめ、核兵器と核物質の保有量を激減させる	核攻撃によってテロリストを脅すのではなく、我々は核兵器について率直に話し合う必要がある。テロリストが核に手を出さないようにすることで安全が保たれる
	エドワーズ氏	米国はこれ以上核兵器の開発を続けるべきではない。私は世界の核兵器を取り除く大統領になりたい。核兵器のない世界になれば、より良い状態になる	パキスタンなど不安定な国で過激派が政権を握り、核兵器を所持すればコントロールすることは不可能だ。テロリストが核兵器や他の大量破壊兵器を入手するのを一刻も早く防がなければならない
共和党	マケイン氏	イランが継続的に核兵器を持とうとしていることは、危険で受け入れることはできない。民間でイランと取引をやめるなどして孤立化を図るべきだ。戦争は最後の手段だが、イランが核保有国になることを考えれば軍事力での解決もあり得る	
	ロムニー氏	NPTの下では、どの国も制裁や罰をほとんど恐れずに、義務を無視している。イランが核を持てば、他の「ならず者国家」も持ちたがるようになるだろう。厳しい安全体制への新しい取り組みを含め、内容を更新する必要がある	核テロの脅威と戦うことが、大統領の最優先課題であるべきだ。核テロを防ぐために、特命大使を任命する。核分裂物質がテロリストの手に渡るのを防ぐため、国際原子力機関と協力し、新しい保護手段をつくり、原子力の平和利用を促進する
	ハッカビー氏	イランが核を保有することは絶対あってはならない。軍事力を行使するのは避けたいが、最終的に使うこともあり得る	
	ジュリアーニ氏		信頼できる抑止力を拡大する

2008年米国大統領選の流れ

1月3日—6月28日 各州の予備選挙・党員集会で選ばれた各党候補が党大会に進出する

11月4日 本選挙投票日

2009年1月20日 新大統領就任

8月25—28日 正副大統領候補を決める民主党党大会

9月1—4日 正副大統領候補を決める共和党党大会